

# 日本学術会議第164回総会資料

(第22期 第4回)

平成25年 4月 2日(火)

4月 3日(水)

4月 4日(木)

日 本 学 術 会 議

## 一 般 的 注 意 事 項

### 1 出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

### 2 旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

### 3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

### 4 委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、エレベーターわきの電光掲示板にてお知らせいたします。

### 5 その他

(1) インターネットに接続できるパソコンを1階ラウンジに御用意しましたのでお気軽にご利用ください。

(2) 配付資料については、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。  
なお、不要な資料は席上にお残してください。

# 第164回総会日程

— 第22期第4回 —

## 第1 日程表

|             | 10:00                                            | 12:00      | 13:30                                                                                                                                             | 15:00            | 16:30                                | 17:30           |
|-------------|--------------------------------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------|-----------------|
| 4月2日<br>(火) | <b>総会</b><br>・ 会長活動報告<br>・ 各副会長活動報告<br>・ 外部評価書報告 | <b>昼休み</b> | <b>総会</b><br>・ 山本科学技術政策担当大臣挨拶<br>・ 審議経過報告<br>①日本学術会議改革検証委員会学術と社会及び政府との関係改革検証分科会<br>②科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会<br>③大学教育の分野別質保証委員会企画連絡分科会<br>④若手アカデミー委員会 | <b>部会</b>        | <b>分野別委員<br/>長・幹事<br/>会合同<br/>会議</b> | <b>幹事<br/>会</b> |
|             | 10:00                                            | 12:00      | 13:30                                                                                                                                             | 16:00            |                                      |                 |
| 4月3日<br>(水) | <b>部会</b>                                        | <b>昼休み</b> | <b>総会</b><br>・ 特別講演（益川敏英先生）<br>「現代社会と科学」<br>・ 各部活動報告<br>・ 自由討議等                                                                                   | <b>同友会総会・懇親会</b> |                                      |                 |
|             | 10:00                                            |            |                                                                                                                                                   |                  |                                      |                 |
| 4月4日<br>(木) | <b>各種委員会等</b>                                    |            |                                                                                                                                                   |                  |                                      |                 |

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

## 第2 会場

総 会……講 堂

その他委員会等……当日掲示板等で通知



|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 1     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成 2 5 年 4 月 2 日

前回（第 1 6 3 回）総会以降の活動状況報告

### 第 1 会長等出席行事

| 月 日                  | 行 事 等                                                                               | 対 応 者                  |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 10 月 11 日（木）         | 総合科学技術会議有識者会合                                                                       | 大西会長                   |
| 10 月 12 日（金）         | 総合科学技術会議 科学技術イノベーション政策推進専門調査会                                                       | 大西会長                   |
| 10 月 12 日（金）         | 日本学士院秋季懇談会（日本学士院）                                                                   | 大西会長、武市副会長、小林副会長、春日副会長 |
| 10 月 18 日（木）         | 総合科学技術会議有識者会合                                                                       | 大西会長                   |
| 10 月 23 日（火）         | 科学技術イノベーション推進に向けた知識の結集—シンクタンク機能のネットワーク形成に向けて— ※講演                                   | 大西会長                   |
| 10 月 24 日（水）         | 総合科学技術会議 第 5 回基礎研究・人材育成部会                                                           | 大西会長                   |
| 10 月 25 日（木）         | 総合科学技術会議有識者会合                                                                       | 大西会長                   |
| 11 月 1 日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                                       | 大西会長                   |
| 11 月 2 日（金）          | 総合科学技術会議本会議                                                                         | 大西会長                   |
| 11 月 10 日（土）         | サイエンスアゴラ 2012／日本学術会議提言「学術からの提言 - 今、復興の力強い歩みを -」シンポジウム（日本科学技術未来館） ※パネリスト ※開会挨拶 ※閉会挨拶 | 大西会長、小林副会長、春日副会長       |
| 11 月 12 日（月）         | 第 21 回パターン認識国際会議 開会式（つくば市） ※主催者挨拶                                                   | 春日副会長                  |
| 11 月 12 日（月）～13 日（火） | 公開シンポジウム「海洋放射能汚染に関する国際シンポジウム—海洋へ与える福島原発事故の影響を探る—」 ※開会挨拶 ※閉会挨拶                       | 大西会長（12 日のみ）、春日副会長     |
| 11 月 15 日（木）         | 総合科学技術会議有識者会合                                                                       | 大西会長                   |
| 11 月 15 日（木）         | 総合科学技術会議第 9 8 回評価専門調査会                                                              | 大西会長                   |

|                      |                                                                      |            |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------|------------|
| 11月18日(日)            | 第9回福島県「県民健康管理調査」検討委員会(福島市)                                           | 春日副会長      |
| 11月19日(月)            | 公開シンポジウム(パネル討論)「学術と未来創造～人は未来の社会を展望できるのか～」※開<br>会挨拶                   | 大西会長       |
| 11月19日(月)            | 総合科学技術会議科学技術イノベーション政策<br>推進専門調査会                                     | 大西会長       |
| 11月21日(水)            | 総合科学技術会議第99回評価専門調査会                                                  | 大西会長       |
| 11月22日(木)            | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 11月24日(土)            | 市民公開シンポジウム「タバコをやめれば笑顔<br>が戻る」(京都市) ※講演                               | 小林副会長      |
| 11月26日(月)            | 第28回国際生物学賞授賞式 出席                                                     | 春日副会長      |
| 11月26日(月)            | 公開シンポジウム「日本の復興・再生に向けた<br>産学官連携の新しいあり方」※挨拶                            | 大西会長       |
| 11月29日(木)            | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 11月29日(木)            | 日本学術会議主催学術フォーラム「巨大災害か<br>ら生命と国土を守る-三十学会からの発信-」※<br>挨拶、学術発表及びディスカッション | 大西会長       |
| 12月2日(日)<br>～5日(水)   | ワールドサイエンスフォーラム運営委員会(フ<br>ランス パリ)                                     | 春日副会長      |
| 12月5日(水)             | 総合科学技術会議「ほ場環境に応じた農作物へ<br>の放射性物質移行低減対策確立のための緊急調<br>査研究」実施WG           | 大西会長       |
| 12月6日(木)             | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 12月7日(金)             | 九州・沖縄地区会議学術講演会(佐賀)                                                   | 春日副会長      |
| 12月8日(土)             | 中国・四国地区会議学術講演会(広島)                                                   | 大西会長       |
| 12月13日(木)<br>～14日(金) | International Symposium on Future Asia<br>(京都)                       | 大西会長、春日副会長 |
| 12月20日(木)            | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 12月20日(木)            | 総合科学技術会議科学技術イノベーション政策<br>推進専門調査会                                     | 大西会長       |
| 12月26日(水)            | アジアの大都市制度と経済成長に関する検討委<br>員会「回答」手交                                    | 大西会長、小林副会長 |
| 12月27日(木)            | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 1月10日(木)             | 講書始の儀 陪聴                                                             | 春日副会長      |
| 1月17日(木)             | 総合科学技術会議有識者会合                                                        | 大西会長       |
| 1月21日(月)             | 公開シンポジウム「学術の大型施設計画・大規<br>模研究計画に関するマスタープラン」※講演                        | 大西会長       |
| 1月22日(火)             | 総合科学技術会議グリーンイノベーション戦略                                                | 大西会長       |

|                   |                                                                  |            |
|-------------------|------------------------------------------------------------------|------------|
|                   | 協議懇談会（第1回）                                                       |            |
| 1月24日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 2月7日（木）           | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 2月13日（水）          | 第10回福島県「県民健康管理調査」検討委員会（福島県）                                      | 春日副会長      |
| 2月14日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 2月19日（火）          | 学術フォーラム『責任ある研究活動』の実現に向けて ※主催者挨拶等                                 | 大西会長、小林副会長 |
| 2月21日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 3月7日（木）～<br>8日（金） | 25th CSPR Meeting（フランス・パリ）                                       | 春日副会長      |
| 3月12日（火）          | 総合科学技術会議 グリーンイノベーション戦略協議懇談会                                      | 大西会長       |
| 3月14日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 3月19日（火）          | 日本学術会議とブルガリア科学アカデミーとの二国間会議「持続可能性に向けた日本とブルガリアの共同研究」 ※挨拶           | 大西会長、春日副会長 |
| 3月21日（木）          | 総合科学技術会議有識者会合                                                    | 大西会長       |
| 3月28日（木）          | 友好レセプション（駐日ブルガリア共和国大使公邸）                                         | 春日副会長      |
| 3月28日（木）          | 総合科学技術会議本会議                                                      | 大西会長       |
| 3月29日（金）          | 総合科学技術会議 社会還元加速プロジェクト「情報通信技術を用いた安全で効率的な道路交通システムの実現」タスクフォース第31回会合 | 大西会長       |

## 第2 会長出席国際会議

| 月 日                   | 会 議 名                                                                          | 開催地            |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 10月10日（水）             | 日本学術会議/インターアカデミーカウンシル共催 原子力発電所事故の影響に関する国際会議－原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割－ | 日本学術会議講堂       |
| 1月17日（木）<br>～18日（金）   | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2012                                                  | 日本学術会議講堂       |
| 2月24日（日）<br>～3月27日（水） | IAP 総会・IAP カンファレンス                                                             | リオデジャネイロ（ブラジル） |

|                   |            |             |
|-------------------|------------|-------------|
| 3月7日（木）<br>～9日（土） | Gサイエンス学術会議 | ニューデリー（インド） |
|-------------------|------------|-------------|

### 第3 表敬訪問

| 月 日       | 会 議 名（開催地）                                                           | 対応者        |
|-----------|----------------------------------------------------------------------|------------|
| 10月2日（火）  | カブリ財団 Conn 会長による会長表敬                                                 | 大西会長       |
| 10月11日（木） | 南アフリカ共和国科学技術省二国間協力担当官表敬訪問                                            | 大西会長、春日副会長 |
| 10月18日（木） | 外務省丸尾科学技術協力担当大使による表敬                                                 | 大西会長、春日副会長 |
| 12月18日    | 駐日ブルガリア共和国特命全権大使による表敬                                                | 大西会長、春日副会長 |
| 3月18日（月）  | ブルガリア科学アカデミー ダムヤン・ニコロフ・ダムヤノフ副会長及び駐日ブルガリア大使ゲオルギ・コンスタンティノフ・ヴァシレフ閣下表敬訪問 | 大西会長、春日副会長 |
| 3月18日（月）  | カナダ王立協会科学アカデミー ケイス・ハイペル 次期会長表敬訪問                                     | 大西会長、春日副会長 |

### 第4 会長談話

次の会長談話を公表した。

「山中伸弥教授のノーベル生理学・医学賞受賞を祝し、基礎研究体制の一層の拡充を願う」

（平成24年10月15日公表）

### 第5 提言等の承認

#### ○声明

#### 1 日本学術会議

声明「科学者の行動規範－改訂版－」

（平成25年1月28日公表）

#### ○回答

#### 1 日本学術会議

回答「アジアの大都市制度と経済成長に関する検証および日本への示唆」

（平成24年12月26日公表）

#### ○提言

#### 1 研究にかかわる「評価システム」の在り方検討委員会

提言「我が国の研究評価システムの在り方 ～研究者を育成・支援する評価システムへの転換～」

(平成24年10月26日公表)

2 環境学委員会環境政策・環境計画分科会

提言「「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言」

(平成24年12月5日公表)

3 環境学委員会環境政策・環境計画分科会

提言「いのちを育む安全な沿岸域形成の早期実現に向けた災害廃棄物施策・多重防御施策・生物多様性施策の統合化の緊急提言」

(平成24年12月5日公表)

4 地球惑星科学委員会

提言「地質地盤情報の共有化に向けてー安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備ー」

(平成25年1月31日公表)

5 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会

提言「科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」

(平成25年2月25日公表)

6 日本の経済政策の設計と具体化検討委員会

提言「日本の経済政策の構想と実践を目指して」

(平成25年2月25日公表)

7 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会

提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけてー成育時間の課題と提言ー」

(平成25年3月22日公表)

8 東日本大震災に係る学術調査検討委員会

提言「東日本大震災に係る学術調査ー課題と今後ついてー」

(平成25年3月28日公表)

○報告

1 科学・技術のデュアルユース問題に関する検討委員会

報告「科学・技術のデュアルユース問題に関する検討報告」

(平成24年11月30日公表)

2 大学教育の分野別質保証推進委員会 法学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：法学分野」

(平成24年11月30日公表)

3 大学教育の分野別質保証推進委員会 言語・文学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：言語・文学分野」

(平成24年11月30日公表)

4 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会

第22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針

(平成24年12月21日公表)

## 第6 日本学術会議主催学術フォーラム

1 日本学術会議主催学術フォーラム「初等・中等教育課程における「ヒトの遺伝学」教育の推進と社会における遺伝リテラシーの定着」を平成25年3月1日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

2 日本学術会議主催学術フォーラム『「責任ある研究活動」の実現に向けて」を平成25年2月19日（火）に日本学術会議講堂にて開催した。

3 日本学術会議主催学術フォーラム「大学教育の質的転換を考える分野別の参照基準と人文・社会科学教育の可能性」を平成25年2月2日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。

4 日本学術会議主催学術フォーラム「自然災害国際ネットワークの構築に向けて：固体地球科学と市民との対話」を平成25年2月1日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

5 日本学術会議主催学術フォーラム「高レベル放射性廃棄物の処分を巡って」を平成25年12月2日（日）に日本学術会議講堂にて開催した。

6 日本学術会議主催学術フォーラム「巨大災害から生命と国土を護る-三十学会からの発信-」を平成24年11月29日（木）に日本学術会議講堂にて開催した。

7 日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大震災がもたらした食料問題を考える」を平成24年11月21日（水）に日本学術会議講堂にて開催した。

8 日本学術会議主催学術フォーラム「ICTを生かした社会デザインと人材育成」を平成24年11月16日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

## 第7 国際会議の開催

- 1 「第21回パターン認識国際会議」を平成24年11月11日（日）～11月15日（木）に茨城県にて開催した。
- 2 日本学術会議/インターアカデミーカウンスル共催原子力発電所事故の影響に関する国際会議－原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割－を平成24年10月10日（水）に日本学術会議講堂にて開催した。
- 3 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012を平成25年1月17日（木）～18日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

## 第8 日本学術会議地区会議

- 1 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「高齢化社会の健康と医療技術」を平成24年12月7日（金）に佐賀県にて開催した。
- 2 日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会「今「宇宙」がおもしろい－宇宙と素粒子の連携－」を平成24年12月8日（土）に広島県にて開催した。
- 3 日本学術会議中部地区会議学術講演会「生命科学・地球科学からのメッセージ」を平成24年12月14日（金）に岐阜県にて開催した。
- 4 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「グローバル社会と共生社会」を平成25年1月29日（火）に沖縄県にて開催した。
- 5 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「アフリカに暮らす人たちとその環境－北の大地からアフリカへの貢献－」を平成25年3月1日（金）に北海道にて開催した。

## 第9 会員の任命

会員の任命

春日雅人連携会員が、平成24年11月30日付で会員に任命された。

## 第10 慶弔等

### 1 慶事

ロレアル・ユネスコ女性科学賞 10月19日発表

黒田 玲子（会員（第21-22期））

平成24年文化功労者 10月30日発表

甘利 俊一（元会員（第17期））

西田 篤弘（元会員（第18-19期）、元連携会員（第20-21期））

平成24年秋の褒章受章者 11月2日発表

【紫綬褒章】

池田 眞朗（会員（第20-22期））

木畑 洋一（連携会員（第20-23期））

近藤 豊（元連携会員（第21期））

笹川 千尋（会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期））

福田 裕穂（会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期））

濱口 宏夫（連携会員（第20-23期））

島本 功（連携会員（第22-23期））

西村 和雄（連携会員（第20-23期））

久保 司郎（連携会員（第21-22期））

三浦 道子（連携会員（第21-22期））

平成24年秋の叙勲受章者 11月3日発表

【瑞宝大綬章】

石 弘光（元会員（第16期））

高久 史麿（元会員（第13-15期））

【瑞宝重光章】

中野 三敏（元連携会員（第20-21期））

【瑞宝中綬章】

渥美 和彦（元会員（第15-16, 18期））

片岡 寛光（元会員（第19期））

加藤 尚武（元会員（第19期）、元連携会員（第20-21期））

佐藤 晃一（元会員（第18-19期）、元連携会員（第20-21期））

村橋 俊一（元会員（第18-19期）、元連携会員（第20-21期））

渡邊 誠喜（元会員（第17-18期））

日本学士院新会員 12月12日発表

荳阪 直行（元会員（第20-21期）、連携会員（第22-23期））

竹内 啓（元会員（第13-14, 17期））

西村 和雄（連携会員（第20-23期））

恩賜賞、日本学士院賞 3月12日発表

松浦 純 (連携会員(第20-22期))

十倉 好紀 (元会員(第20期)、連携会員(第21-22期))

日本学士院賞 3月12日発表

巽 和行 (会員(第21-22期)、元連携会員(第20期))

中沢 正隆 (連携会員(第20-22期))

佐藤 英明 (会員(第22-23期)、元連携会員(第20-21期))

鍋島 陽一 (元会員(第20-21期)、連携会員(第22-23期))

門脇 孝 (連携会員(第20, 22-23期))

2 ご逝去

榎木 亨(さわらぎ とおる) 81歳 10月21日

元会員(第16-17期) 大阪大学名誉教授

小西 俊造(こにし しゅんぞう) 93歳 10月27日

元会員(第11-12期) 元山口大学長

平本 幸男(ひらもと ゆきお) 86歳 10月30日

元会員(第13期) 東京工業大学名誉教授

本明 寛(もとあき ひろし) 94歳 12月6日

元会員(第11-13期)、第13期第一部部長 早稲田大学名誉教授

祖父江 孝男(そふえ たかお) 86歳 12月15日

元会員(第15期) 国立民族学博物館名誉教授

桜井 由躬雄(さくらい ゆみお) 67歳 12月17日

元連携会員(第20-21期) 東京大学名誉教授

砂川 一郎（すながわ いちろう） 88歳 12月20日  
元会員（第12-13期）東北大学名誉教授

木村 榮一（きむら えいいち） 87歳 1月4日  
元会員（第13-14期）一橋大学名誉教授

西垣 晴次（にしがき せいじ） 83歳 1月6日  
元会員（第11-12、14期）群馬大学名誉教授

加藤 寛（かとう ひろし） 86歳 1月30日  
元会員（第13,14期）千葉商科大名誉学長、慶応大名誉教授

有賀 貞（あるが ただし） 81歳 3月13日  
元会員（第17期）一橋大学名誉教授

黒川 俊雄（くろかわ としお） 89歳 3月19日  
元会員（第14期）慶應義塾大学名誉教授、桜美林大学名誉教授

岩佐 義朗（いわさ よしあき） 84歳 3月20日  
元会員（第13-14期）京都大学名誉教授

## 第11 その他

事務局人事異動

管理課長

旧：上平 春樹

（平成25年3月31日付）

新：長谷川 和好

（平成25年4月1日付）

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 2     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 会 長 報 告

### 日本学術会議の活動の報告と方針

2013 年 4 月 2 日 第 22 期日本学術会議会長 大西隆

#### 1. 22 期の方針と 2012 年 9 月—2013 年 3 月の活動方針 (2012 年 10 月 9 日会長報告の要約)

22 期及び 2012 年 9 月—2013 年 3 月の期間に対して以下のような方針を掲げたので、その自己点検と次なる展開を考える。

##### 1-1 22 期の方針

###### (1) 科学者の意見集約機能の強化

多くの会員・連携会員が、出来るだけ早く、本格的に日本学術会議の活動に参画できるようにすること。

###### (2) アカデミーの国際連携への貢献

日本学術会議の重要な活動分野の一つが、各国アカデミー（総合的科学者組織）との交流や、国際的アカデミー組織の一員としての活動を進めること。

###### (3) 国民との連携及び内外に向けた情報発信力の強化

国民の科学に対する期待に応えるために、国民が関心を持つ領域で科学者からのメッセージを的確に発信し、社会的貢献と責任を果たすこと。

##### 1-2 2012 年 10 月—2013 年 3 月までの活動方針

###### (1) 東日本大震災復興支援の一層の促進

6 分科会の活動を促進し、適切な段階で提言等を発していく体制を強化する。

###### (2) 学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理

原子力利用の将来像、デュアルユース問題等に取り組む。科学者倫理の再認識、学術の社会貢献、社会的な責任論に関して包括的な見解を示していく。

###### (3) 科学技術立国を支える学術の発展

科学技術研究促進、その成果の社会還元。また大学教育の質保証の審議体制の拡充。大型研究施設・研究計画について具体的な課題を提示。

###### (4) 科学技術分野の国際交流の推進

先進工業国間のみならず、新興国、途上国とも積極的に交流する。また特に、近隣諸国との学術的な交流をさらに発展させる。

###### (5) 会員・連携会員選考の基本方針の策定

優れた研究又は業績ある科学者のうちから会員候補者を選考し総理大臣に推薦。加えて、男女比・地域バランス・新分野開拓等に配慮し、“狭い世界”で会員選考が行われることがないようにする。

## 2. 2012 年 10 月—2013 年 3 月の実績

### (1) 東日本大震災復興支援の一層の促進

東日本大震災復興支援委員会では、新たに立ち上げた 3 分科会を含めて、6 分科会で審議を行っている。提言等は、今期末に向けて作成するが、必要に応じて中間的な取りまとめを行う分科会もあり得る。東日本大震災復興支援委員会に加えて、幹事会付置委員会として、新たに「原子力利用の将来像についての検討委員会」を設け、「原子力学の将来検討分科会」、「原子力発電の将来検討委員会」の 2 分科会を設けた。これらの委員会及び分科会で、東京電力福島原発事故によって、専門家及び一般社会に安全性に関する大きな不信感が広がっている原子力利用について学術の観点からの見解を示そうとしている。既に原子力利用に関連しては、2012 年 9 月に『高レベル放射性廃棄物の処分について』を発表し、既に膨大な量に達している原子力発電からの廃棄物が、安全で安定的な最終処分が行われないままに暫定的に管理されている状態（バックエンド問題）に対し、警鐘を鳴らし、適切な処分に向けての道筋を、問題の根本に立ち返って提起した。また、前政権の下での原子力委員会の抜本的見直しに際して、私が取りまとめに当たり、特に原子力の平和的利用の担保、バックエンド問題への対処、原子力政策の公開性の観点から審議を行う組織体の必要性を示した。

政権交代後の現段階では、まだ新たな原子力利用の方針が示されていないが、政府における方針提示とともに、平和的利用、核廃棄物の超長期的な安全管理、議論の公開性や透明性に関わる議論が行われることを強く期待するとともに、学術の観点から積極的に貢献する。

### (2) 学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理

幹事会付置委員会として発足させた、日本学術会議改革検証委員会の下で、「学術と社会及び政府との関係改革検証分科会」を設置し、『科学者の行動規範』を改訂した。改訂の主な項目は、科学者の社会的貢献・社会的責任に関わる条項を新たに設け、社会、政府への学術的な助言を行うことなどを明記した。また、今日、学術研究が破壊的な目的に悪用されるケースがあることに関連して、学術研究の持つ両義性を認識し、社会に許容される適切な方法で研究や発表を行うことが科学者に求められることを明記した。さらに、残念ながら研究費の不正使用や虚偽の研究成果発表など、科学者の不正行為は後を絶たず、科学へ

の不信感を生むことになっている現状を踏まえて、一層強く不正行為の断絶を述べた。

日本学術会議が、この科学者の行動規範を浸透させるべく努力するのは当然であるが、同時に各大学、研究所、研究費助成機関等と連携して、科学者の間で行動規範に関わる議論が行われることを奨励し、科学者と科学への信頼を高める努力をしなければならない。

### （３）科学技術立国を支える学術の発展

科学研究の基盤を強化するために、日本学術会議として優先度の高い大型研究施設拡充を求めるために、2012年12月に『22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針』をまとめ、大学、研究機関、学協会等の協力によってマスタープランの改定を図ることにし、作業に着手した。学術の振興のためには、適切な施設整備が不可欠であり、特に基礎研究については、国の責任で研究態勢の拡充を行うことが必要である。

また、科学研究やイノベーションの基礎を支える高度な専門性を持った人材を育成するために、大学における教育の質保証に取り組んできた。2012年8月に文部科学省からこのテーマに関する正式な審議依頼を受けたので、審議態勢を一層強化することにし、新たに幹事会に「大学教育の分野別質保障推進委員会」を立ち上げた。その後、各論の審議の場となる各分野の委員会を設置して審議を進めてきた。

### （４）科学技術分野の国際交流の推進

学術の国際組織である IAP の総会が開催され、日本学術会議は、執行委員会メンバーに選出された。ICSU については、Future Earth のプログラムを提唱しており、日本学術会議も同調して、積極的に推進することとしている。クアラルンプールで開催された Future Earth 地域ワークショップ（アジア太平洋地域会議）への代表派遣、総合地球環境学研究所との Future Earth に関する会議の共催、ICSU、国連大学、関係研究機関や府省との議論などを通じ、このテーマの議論を深めてきた。

また、G8サミット参加各国首脳に向けて政策提言を行うことを目的に、2005年に発足した科学アカデミー会合(G-Science 会合)が、本年は初めてG8諸国を離れてインドのアカデミー（INSA）の主催によってデリーで開催された。「持続可能な発展の促進：科学・技術の役割」と、「病原微生物の薬剤耐性問題：人類への脅威」の2テーマについての会合を終え、提言を取りまとめているところである。

2国間交流では、昨年協定を取り交わしたブルガリアのBAS（Bulgarian

Academy of Sciences) を日本に招いて、「持続的な発展のための日本－ブルガリア研究協力」をテーマとしたワークショップを 2013 年 3 月に日本学術会議で開催した。その他、代表派遣、共同主催国際会議にも積極的に取り組んできた。

### (5) 会員・連携会員選考の基本方針の策定

選考委員会においてなお継続して審議しているが、23 期の会員・連携会員の選考に当たっては、専門分野における科学者としての実績と学術会議への貢献を含むアカデミー活動への関心を最重要の選考基準とし、加えて、男女バランス、地域バランスを考慮して選考する方針を合意した。さらに、新たな分野の科学者を積極的に登用して、日本学術会議が先進性を失わないことが重要である。

## 3. 日本学術会議の財務問題

2012 年 10 月頃に、2012 年度の財務状況（会員・連携会員の手当、及び旅費）が極めて厳しく、そのまま推移すると、支出超過となって、活動を停止しなければならないことが判明した。直ちに会長をトップとする財務健全化緊急対策 TF を設けて、会員・連携会員の手当については、2012 年 12 月 1 日以降、暫定辞退か完全辞退に同意して頂くように協力をお願いし、旅費については 2013 年 1 月 15 日開催会議以降、ビデオ会議を積極的に導入し、遠距離旅費を節約すること、海外旅費を極力節約することとした。

幸い、会員・連携会員の皆様のご協力によって、危機は回避できた。改めてお礼を申し上げる。

ただ、学術会議の活動が予算をベースに行われているという基本構造は不変なので、今後も同様の問題が発生することは大いに考えられる。そこで 2013 年度以降は、年度初めに年間の審議内容の計画とともに、会議開催計画を出して頂き、計画的な予算執行が可能なように必要な調整を行うことにした。会議については、会員・連携会員手当を支給しない形での意見交換の活用、旅費についてビデオ会議を恒常的な会議方法として採用して、旅費の削減を図ることが必要と考えている。もちろん、面談会合によって、より緊密な意思の疎通を図ることが学術会議の活動にとって極めて重要であるから、面談会議を効果的に行うことが日本学術会議の運営の要になることは変わらない。限られた予算を、適切に、かつ効果的に活用しながら運営していきたい。

2012 年度におけるご協力に感謝するとともに、今後のご協力をお願い申し上げます。

## 4. 22 期の方針と 2012 年 10 月－2013 年 3 月の活動

22 期の方針として示してきた 3 項目のうちで、アカデミーの国際連携への貢献

については、2012 年 10 月—2013 年 3 月の活動報告の中でも述べた。ここでは、科学者の意見集約機能の強化と国民との連携及び内外に向けた情報発信力の強化について述べる。

### （１） 科学者の意見集約機能強化

意見集約機能の強化については、新たな試みとして、委員会等委員の内部公募（会員・連携会員の中から自薦・他薦によって委員を募る）を開始した。「東日本大震災復興支援委員会災害に対するレジリエンス構築分科会」や、「原子力利用の将来像に関する検討委員会」においては、内部公募が既に行われ、多くの会員・連携会員の参加希望があった。今後もこうした試みを継続していくことが必要である。

また、会長副会長等、執行部からの会員への情報発信を強化するために、幹事会便りを拡充したり、財務危機に際して、会長から会員・連携会員へのメッセージを届け、それに対するご質問には同じく文書で回答を示した。その結果、財務危機について多くの会員・連携会員にご理解いただき、対策に協力して頂くことができたのではないかと思う。

### （２） 国民との連携及び内外に向けた情報発信力

重要なのは、やはりマスメディアを通じて国民に訴えることである。新聞等の取材に可能な限り応じたり、重要な提言発表時には記者説明会を開催したり、さらに私自身もこの期間に、NHK 視点論点に 2 回出演、といような可能な限り学術会議の活動に関して、マスメディアを通じて国民に広く知って頂く機会を作ってきた。

HP も更新を可能な限り頻度高く行い、最新情報が掲載されるようにして、閲覧の価値を高めようと努めてきた。イベント情報等は、関係学会に情報提供して、それらの学会の会員の方々に周知して頂くよう努めてきた。

学術会議の考え方をより深く知って頂くためには、シンポジウムの開催、学術の動向への全面協力、同じく（財）日本学術協力財団からの『生殖補助医療と法』等の刊行、さらに岩波書店からの知の航海シリーズの発行等、様々な媒体を活用してきた。

学術会議の国民への浸透度、あるいは科学の普及度を的確に図ることは容易ではないが、学術会議講堂で開催される各種イベントに、いつも多数の参加者があることから、科学や日本学術会議に対する国民の期待や関心はかなり高いのではないかと感じている。

## 5. 2013 年 4 月—9 月の活動方針

## **(1) 前半年の活動方針の継続**

「東日本大震災復興支援の一層の促進」、「学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理」、「科学技術立国を支える学術の発展」、「科学技術分野の国際交流の推進」、「会員・連携会員選考の基本方針をまとめる」については、これまでの成果をさらに発展させる取り組みを継続する。

### **① 東日本大震災復興支援の一層の促進**

6 分科会の活動を促進し、適切な段階で提言等を発していく体制を強化する。原子力利用の将来像について、電力利用、非電力利用の在り方について審議を深める。

### **② 学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理**

「科学者の行動規範（改訂版）」の普及を図る。諸機関と連携して、科学者の社会貢献、倫理問題の理解を深める。

### **③ 科学技術立国を支える学術の発展**

科学技術研究促進、その成果の社会還元。また大学教育の質保証の審議の加速化。大型研究施設・研究計画について具体的な課題を提示していく。

### **④ 科学技術分野の国際交流の推進**

Future Earth への具体的な貢献を進めるなど、国際アカデミー組織において積極的な役割を担う。二国ベース、地域ベースの学術交流をさらに発展させる。共同主催国際会議等、国内での国際活動にも積極的に関わる。

### **⑤ 会員・連携会員選考の基本方針の策定**

優れた研究又は業績ある科学者のうちから会員候補者を選考する。加えて、男女比・地域バランス・新分野開拓等に配慮し、“狭い世界”で会員選考が行われることがないようにする。

## **(2) 新規に取り組むテーマ**

### **① 会員・連携会員からの提案による学術の観点からさらに深めるべき課題への取組**

我が国及び国際社会が今日抱えている課題で、学術の貢献が要請される領域について、日本学術会議がより深い審議を行って、学術界の見解を社会に示していくことが必要である。

人口減少社会及び人口問題への対処、科学の新しい地平を切り開く可能性を持つ超大型研究推進の在り方、科学を社会や政策に活かしていくための日本学術会議の助言機能の強化等がこれから検討を深めるべき新たなテーマの例と考えている。これらを含め、2013 年 4 月の総会から一定期間で検討すべきテーマを会員・連携会員から募集して、数を絞った上で、十分な体制を組み、今期

で取りまとめを行うべく審議を行う。是非ご協力をお願いしたい。

## ② 日本学術会議の助言力、発信力の強化

日本学術会議の社会的な役割が、政府、産業、社会に対する助言機能であることを踏まえて、一層こうした機能を高めるとともに、科学者の助言機能を活かす制度の在り方について議論を深める。

## ③ 予算の合理的な活用と新たな予算獲得

活動が活発になれば、手当及び旅費が不足しがちになる構造にあるために、活動を維持、発展させつつ、経費を過不足なく活用するためには、委員会活動の計画的な推進、メールでの意見交換・電子掲示板利用、ビデオ会議等を適切に組み合わせることが必要である。特に、ビデオ会議は旅費の節約という財務目的だけではなく、移動に関わる時間消費や疲労を削減できるので、積極的に利用したい。一方で、面談によって意思の疎通を図ることは、ビデオ会議等の審議をスムーズに、かつ深く行う上で欠かせない。委員会等活動年度計画の中で、これらの会議を適切に位置づけていくことが重要であると考えている。

また、手当支給が重要であることは言うまでもないが、手当不足で活動のレベルが低下しないように、メールや掲示板を通じた審議を活用したり、様々な機会をとらえて意見交換を進めて、議論の質を高める努力をする。

さらに、一体で活動する会員と連携会員の手当が別費目とされていて一体として使えない等、現予算の枠組みが日本学術会議の活動実態に適合していない面があるので、その改善を求めていくとともに、日本学術会議が力を注ぐ活動に予算が明示的に割り当てられるように、重点を置く活動を鮮明にした概算要求を積極的に行い、政府・国会のご理解を得ていく。

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 3     |
| 総 会 | 1 6 4 |

武 市 副 会 長 報 告  
組織運営及び科学者間の連携に関する活動報告  
(平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月)

副会長 武市 正人

1. 科学者委員会

科学者委員会では科学者間の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている 7 分科会をとりまとめている。

科学者委員会は、平成 24 年 10 月以降、1 回の会議と 4 回のメール審議を行った。

(1) 日本学術会議協力学術研究団体の指定

日本学術会議協力学術研究団体指定への新規申請に対する審査のための指定要件における「研究者」の定義(範囲)を検討し、円滑な審査が行えるようにした。なお、平成 25 年 4 月 1 日における指定団体数は 1935 である。

(2) 地区会議との連携

平成 24 年度下半期には、各地区会議運営協議会、学術講演会及び地域科学者との懇談会等を 5 件（佐賀、広島、岐阜、那覇、札幌）開催し、地区会議ニュースを発行した。なお、地域科学者との交流を深めるために、地区会議の学術講演会等には、可能な限り会長又は副会長が出席している。

(2) 分科会活動の状況

- 広報分科会

平成 24 年度下半期に、7 回（うちメール審議 5 回）開催し、広報活動の状況を確認し、月刊誌『学術の動向』の編集について審議した。

- 男女共同参画分科会

平成 24 年度下半期に 1 回開催した。学術界における男女共同参画推進に関する調査のために、協力学術研究団体に対して実施した代表・会員の女性比率等に関するアンケートの結果の分析を踏まえて今後の方策を審議した。

- 学術体制分科会

平成 24 年度下半期に 1 回開催し、今後の学術体制のあり方等について議論した。

- 学協会機能強化方策検討等分科会

平成 24 年度下半期に 1 回開催し、公益法人法への移行状況のアンケート調査を行い、結果の分析を行った。

- 学術の大型研究計画検討分科会

平成 24 年度下半期に 8 回(うちメール審議 1 回)開催した。各部の夏季部会で議論しマスタープラン報告「第 22 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」を発出し、「学術大型研究計画」の公募を行った。

- 学術誌問題検討分科会

平成 24 年度下半期に 3 回開催した。学協会にアンケート調査を行い、国際情報発信力の強化に向けた学術誌の諸問題を検討した。

- 知的財産検討分科会

平成 24 年度下半期には開催なし。

## 2. 会員・連携会員向けの電子掲示板

会員及び連携会員が利用できる公式の電子掲示板の整備を進め、平成 24 年 5 月から会員及び連携会員が掲示板による意見交換をできるようにした。幹事会における資料の共有等でも活用しているほか、委員会や分科会でも利用されているが、今後の活用が期待される。

## 3. 遠隔会議

ビデオ会議により遠隔地から参加する委員も委員会開催の定足数に含めることとする制度の改定を行い(平成 24 年 12 月 21 日第 167 回幹事会)、Skype、および Web 会議システム V-CUBE の試行を経て、平成 25 年 1 月 15 日から遠隔会議による委員会等を約 40 件開催した。参加者が 30 名ほどの比較的大きな会議も行われ、また、10 地点からの参加のあった会議もあったが、多くは 1～2 名が遠隔地から参加した。

## 4. 若手アカデミー

幹事会附置の「若手アカデミー委員会」で若手の連携会員及び特任連携会員による自律的な活動を試行しつつ、平成 24 年度下半期には、第 23 期の「若手アカデミー」発足に向けて具体的な構成案を検討した。

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 4     |
| 総 会 | 1 6 4 |

小 林 副 会 長 報 告  
政府、社会及び国民等との関係に関する活動報告  
(平成 24 年 10 月～平成 25 年 4 月)

副会長 小林良彰

## 1 概要

政府、社会及び国民等との関係に関しては、21期からの申し送り事項として、以下が挙がっていた。

- 提言・助言機能の強化
- 社会・国民との連携強化
- 政府との連携強化

これらを踏まえ、科学と社会委員会は、勧告、要望等の内容の検討、国民の科学に対する理解の増進、その他学術会議と政府、社会及び国民等との関係について審議を行い、今期においては、11回の委員会を開催した。

### 【提言・助言機能の強化関連】

課題別委員会としては長期の審議を要する「大学教育の分野別質保証推進委員会」の在り方について協議し、親委員会を幹事会附置委員会に、参照基準検討分科会を各部の下分野別委員会分科会に移行することを方向付け、その後、幹事会にて移行が決定された。

また、課題別委員会からの議事要旨等の提出、査読担当委員からの報告及び事務局からのヒアリング等により、課題別委員会の審議状況の把握を行うとともに、平成24年10月以降、下記の査読を実施した。

#### ① 研究にかかわる「評価システム」の在り方検討委員会

「提言・我が国の研究評価システムの在り方 ～研究者を育成・支援する評価システムへの転換～」

② 科学・技術のデュアルユース問題に関する検討委員会

「報告・科学・技術のデュアルユース問題に関する検討報告」

③ 学教育の分野別質保証推進委員会言語・文学分野の参照基準検討分科会

「報告・大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：言語・文学分野」

④ 大学教育の分野別質保証推進委員会 法学分野の参照基準検討分科会

「報告・大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：法学分野」

⑤ アジアの大都市制度と経済成長に関する検討委員会

「回答・大都市制度と経済成長に関する検証および日本への示唆」

⑥ 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会

「提言・科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」

⑦ 日本の経済政策の設計と具体化検討委員会

「提言・日本の経済政策の構想と実践を目指して」

さらに、これまで科学と社会委員会の査読対象としていなかった幹事会附置委員会の提言案等についても、査読を行うこととした。そのための関係規定の改正を行った上で、査読・助言体制等のいっそうの充実を目指し、3名の委員の増員を行い、「東日本大震災に係る学術調査検討委員会」の提言の査読を実施した。

**【社会・国民との連携強化関連】**

平成24年11月には、会長名文書であった「サイエンスカフェに関する今後の対応について」を新たに幹事会決定として位置付け、学術会議としてサイエンスカフェへの取り組みを明確化した。

また、同11月のサイエンスアゴラにおいては、提言「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」をシンポジウムのテーマとし、東日本大震災の復興支援について参加者と意見交換を行った。

**【政府との連携強化関連】**

政府からの審議依頼に関しては、回答「アジアの大都市制度と経済成長に関する検証および日本への示唆」の査読を実施し、平成24年12月に、本回答は大西会長から総務省自治行政局長に手交され、説明が行われた（副会長及びアジアの大都市制度と経済成長に関する検討委員会委員長同席）。

## 2 「科学と社会委員会」の分科会報告

### (1) 課題別審議検討分科会

今期においては11回の分科会を開催し、課題別委員会に係る幹事会における議論を支援した。

平成24年度10月以降、大学教育の分野別質保証推進委員会の幹事会附置委員会への移行のほか、課題別委員会の再設置については1件、設置期限の延長については2件、委員の候補等については、のべ23名の審議を行った。

### (2) 課題別審議等査読分科会

勧告、要望及び声明並びに課題別委員会が作成する提言及び報告の草案の査読に関して、それぞれの分野に係る専門的知見を有する者の見識も生かしつつ、より充実した査読を行うため、平成24年1月の幹事会決定により設置された。

平成24年10月以降、幹事会附置委員会の提言等の草案の査読を行うこととなったことに伴い、親委員会と同じく、3名の委員の増員を行った。

### (3) 年次報告等検討分科会

今期においては7回の分科会を開催し、外部評価委員から意見聴取に基づき、「日本学術会議第21期3年目（平成22年10月～平成23年9月）の活動状況に関する評価」及び「日本学術会議第22期1年目（平成23年10月～平成24年9月）の活動状況に関する評価」をとりまとめた。

### (4) 政府、社会及び国民等との連携強化分科会

日本学術会議と政府、社会及び国民等との連携の一層の強化を図り、日本学術会議の存在感をより高めるための様々な方策の検討、実施を行うため、平成24年1月の幹事会決定により設置された。

### (5) 科学力増進分科会

今期においては10回の分科会を開催し、社会全体の科学リテラシーを高めるために、学術会議として今後何をなすべきかについて審議を行っている。また、平成24年10月以降、科学者と一般市民が、科学について直接対話する場として、「サイエンスカフェ」を文部科学省情報ひろばラウンジで、以下の通り開催した。

| 開催日               | テーマ                                  |
|-------------------|--------------------------------------|
| 平成 24 年 11 月 22 日 | 行き場がない原発からの核のゴミ                      |
| 平成 25 年 1 月 25 日  | あなたの関心は？ それにいくら投資しますか？～宇宙研究大型プロジェクト～ |
| 3 月 22 日          | 子どもたちへの政治教育                          |

更に平成 24 年 11 月には「サイエンスアゴラ 2012」を日本科学未来館等で以下の通り開催した。

| 開催日                         | シンポジウムのテーマ等                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 24 年 11 月 10 日～11 月 11 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の科学人材育成から見た秋入学の是非</li> <li>・ 科学・技術でわかること、わからないこと Part II</li> <li>・ 日本学術会議提言「学術からの提言ー今、復興の力強い歩みをー」シンポジウム</li> <li>・ 地球に生きる素養を身につけよう</li> <li>・ 討議：高レベル放射性廃棄物の処分はどうあるべきか！？</li> </ul> |

## (6)「知の航海」分科会

科学と社会委員会の分科会として設置し、4 回の分科会を開催し、「知の航海」シリーズの企画について審議を行っている。平成 24 年 10 月以降、以下の 1 冊の新刊が発刊されている。

| タイトル              | 著者    |
|-------------------|-------|
| 理系女子的生き方のススメ (既刊) | 美馬のゆり |

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 5     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 春日副会長報告

国際活動報告[2012年10月～2013年3月]

国際担当副会長 春日 文子

### 1. 国際委員会及び分科会等の開催

#### (1) 国際委員会

第18回(10/11)～第23回(3/12)(メール審議含む)

#### (2) 分科会等

##### ① 国際会議主催等検討分科会

第4回(2/5)

##### ② アジア学術会議分科会

第5回(10/11)～第7回(メール審議含む)

##### ③ Gサイエンス及びICSU等分科会

第1回(11/2)、第2回(3/29)

##### ④ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012分科会

第3回(10/16)

##### ⑤ 国際対応戦略立案分科会

第2回～第4回(3/12)(メール審議含む)

### 2. 国際会議等への代表の派遣

- ・ Future Earth アジア太平洋地域ワークショップ：2012年11月21～23日、クアラルンプール(マレーシア)
- ・ ICSU SC Meeting on Urban Health and Wellbeing:2012年12月3～4日、パリ(フランス)
- ・ ワールドサイエンスフォーラム運営委員会：2012年12月3日、パリ(フランス)
- ・ IAP 総会ならびに国際会議：2013年2月24～27日、リオデジャネイロ(ブラジル)
- ・ Gサイエンス学術会議：2013年3月7～9日、ニューデリー(インド)
- ・ ICSU Committee on Scientific Planning and Review:2013年3月7～8日、パリ(フランス)

など

### 3. 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

テーマ「災害復興とリスク対応のための知」

2013 年 1 月 17、18 日、日本学術会議講堂にて開催

全体議長：大西会長

組織委員会委員長：生源寺第二部副部長

4. 日本学術会議／IAC 共同主催 原子力発電所事故の影響に関する国際会議  
ー原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割ー  
2012 年 10 月 10 日、日本学術会議講堂にて開催  
参加：IAC 共同議長、事務局長、ICSU 会長、7 か国アカデミー代表ならびに  
専門家、学術会議関係者ほか

5. 共同主催国際会議

(1) 平成 24 年度共同主催国際会議

- ・第 21 回パターン認識国際会議（11/11～15：つくば）  
春日副会長主催者挨拶

(2) 平成 27 年度共同主催申請国際会議ヒアリング審査ならびに候補会議決定

6. 二国間学術交流

ブルガリア科学アカデミーとの二国間会議

“Bulgaria-Japan research collaboration for sustainable development”

2013 年 3 月 19 日、日本学術会議会議室にて開催

参加：ブルガリア科学アカデミー、ブルガリア大使館、外務省、関係企業、  
日本側専門家、学術会議関係者ほか

7. その他

(1) 海外からの表敬訪問

- ① カヴリ財団会長：10 月 2 日（大西会長）
- ② 南アフリカ共和国科学技術省二国間協力担当官：10 月 11 日（大西会長、春日副会長）
- ③ 駐日ブルガリア共和国特命全権大使 2012 年 12 月 18 日（大西会長、春日副会長）
- ④ ブルガリア科学アカデミー 2013 年 3 月 18 日（大西会長、春日副会長）
- ⑤ カナダ王立協会科学アカデミー次期会長 2013 年 3 月 18 日（大西会長、春日副会長）

(2) STS フォーラム アカデミー会長会議主催：2012 年 10 月 8 日（京都）

(3) IAP 総会（2013 年 2 月リオデジャネイロ）において、日本学術会議は IAP 執行委員メンバーに当選

## 8. 国際活動今後の主な検討課題

(1) Future Earth への日本からの貢献

(2) 加盟国際学術団体の見直しならびに新規加盟                      ほか

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 6     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 第 一 部 報 告

### 第一部活動報告（第 1 6 4 回総会）

佐藤 学（第一部部長）

#### 1. 組織の概要

第一部は、言語・文化委員会、哲学委員会、史学委員会、心理学・教育学委員会、社会学委員会、地域研究委員会、法学委員会、政治学委員会、経済学委員会及び経営学委員会の 10 委員会のもとに 80 近い分科会が活動している。

部会は年 3 回（夏季部会を含む）と隔月の拡大役員会によって運営し、第一部付設の 3 つの分科会、「福島原発災害後の科学と社会のあり方を考える分科会」「国際協力分科会」「大型研究計画検討推進分科会」を組織し、それぞれの活動を推進してきた。なお、これらの活動の情報は「ニューズレター」（これまで 3 回発行）にて会員・連携会員で共有している。

#### 2. 第一部付置分科会の活動

「福島原発災害後の科学と社会のあり方を考える分科会」（これまで 7 回開催）において「社会のための科学」としての反省すべき点、「社会のための科学」としての責任を担える制度のあり方と科学者の倫理について審議を重ね、1 月 12 日に公開シンポジウム「科学者はフクシマから何を学ぶのか？—科学と社会の関係の見直し」を開催した。

「国際協力分科会」においては、AASSREC（アジア社会科学研究協議会連盟）と IFSSO（国際社会科学団体連盟）の 2 団体の国内委員会としての活動を展開し、ISSC（国際社会科学協議会）に加盟を行うための準備活動を展開している。今月（平成 25 年 4 月）開催される AASSREC 総会（テーマ：高齢化するアジア諸社会）の準備を目的として 2012 年 9 月 12 日にシンポジウム『高齢社会論の最前線』を行った。

「大型研究計画検討推進分科会」は、この半年の集約的な分科会である。第一部関連の大型研究計画としては、昨年度小改訂を行って提出された「社会科学統合データベース・ソリューション網の形成」、「心の先端研究のための連携拠点」の 2 件に加え、『『地域の知』を理解し共有する実践的情報基盤の形成』、「日本語歴史的典籍のデータベースの構築計画」の計 4 件の申請がマスタープランとして採択されている。今年度は 10 分野別委員会の 11 分野（心理学と教育学は別分野として扱う）および「人文社会科学融合」（7 領域）において「日本の展望」にもとづく「学術研究領域」を定め、公募を通じて各領域に数件は申請が行われること促進するなど、マスタープラン策定を推進してきた。

### 3. 第一部関連分科会のシンポジウム開催一覧（平成 24 年 10 月—平成 25 年 3 月）

第一部関連の分科会の活動状況は活発であり、以下のシンポジウム等を主催し開催した。

「雇用崩壊とジェンダー」（社会学・史学・法学）

「日本の国際政治学—学会のあり方と学問のあり方」（政治学）

「現代への視点と世界史像の再構築」（史学）

「震災問題を考える」（社会学）

「社会学テキストの中のグローバル化と社会的不平等：東アジアの視点」（社会学）

「経済政策史資料保存促進のために今何が必要か？」（経済学）

「犯罪と被害防止に貢献する心理学（心理学・教育学）」

「負の連鎖を断ち切ることができるか—児童虐待からの再生」（心理学・教育学）

「古典と伝統知」（哲学）

「原発災害による苦難と科学・学術の責任」（哲学）

「地域研究の「粋」を味わう—現地から中国、東南アジア、アフリカ、中東を読む」（地域研究）

「東日本大震災とマイノリティー高齢者、障害者、外国人などに関して問わなければならないこと」（社会学）

「ユーロ危機とヨーロッパの政治経済」（政治学）

「震災復興とジェンダー」（社会学）

「震災復興の論理—新自由主義と日本社会」（社会学）

### 4. 夏季部会の準備状況

今年度の夏季部会は、旅費が逼迫している現状を考慮して東京で開催（8月23、24日）とし、部会の会議と独立して、福島において公開シンポジウム（7月13、14日）を開催することとした。夏季部会においては、人文社会科学振興の課題とエネルギー政策、および東日本大震災復興支援に関する意見交換を中心に審議する予定であり、福島における公開シンポジウムにおいては、福島の現実に学び原発事故の教訓と今後の科学と社会のあり方をテーマに討議する予定である。

なお、旅費の逼迫により、各分科会の活動に停滞状況が生じている。この対策についても夏季部会で議論しておきたい。

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 7     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 第 二 部 報 告

### 第二部活動報告(平成 24 年 10 月～25 年 3 月)

#### 1) 提言の発出 (1 件)

提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけてー成育時間の課題と提言ー」

(心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会) (下線が二部所属分野別委員会)

平成 25 年 3 月 22 日

#### 2) 報告 (案) の作成 (1 件)

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 家政学分野」

(健康・生活科学委員会家政学分野の参照基準検討分科会)

#### 3) 学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン

二部としての取り組み基本方針の討議(第二部拡大役員会議)平成 24 年 11 月 8 日

「学術研究領域」策定のためのメール会議(各分野別委員会および第二部拡大役員会議)

#### 4) 開催した主な公開講演会・シンポジウム等

| 開 催 日                               | 名 称                                  | 開催場所      | 委員会・分科会                 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|-----------|-------------------------|
| 平成 24 年 10 月 13 日(土)<br>10:00～17:00 | 公開シンポジウム「東日本大震災からの農林水産業と地域社会の復興」     | 東京大学弥生講堂  | 農学委員会地域総合農学分科会          |
| 平成 24 年 10 月 25 日(木)<br>13:00～15:00 | 公開シンポジウム「福島原発事故による放射線被ばくー今後の対策と健康管理」 | 山口県山口市民会館 | 健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会 |
| 平成 24 年 10 月 29 日(月)<br>13:00～17:00 | 公開シンポジウム「安全・安定な食糧生産に向けて農業のシステム化を考える」 | 日本学術会議講堂  | 農学委員会・食科学委員会合同農芸化学分科会   |
| 平成 24 年 11 月 7 日(水)<br>13:00～17:00  | 「福島原発事故による放射能汚染と森林・木材」               | 日本学術会議講堂  | 農学委員会林学分科会              |

|                                     |                                                      |                    |                                                                                                          |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 24 年 11 月 13 日(火)<br>13:00～17:30 | 公開シンポジウム「植物保護科学におけるゲノム科学の利用」                         | 日本学術会議講堂           | 農学委員会植物保護科学分科会                                                                                           |
| 平成 24 年 11 月 19 日(月)<br>14:00～18:00 | 公開シンポジウム「先進的インビボサイエンス研究の推進」                          | 北海道大学<br>フラテホール    | 基礎医学委員会機能医科学分科会                                                                                          |
| 平成 24 年 11 月 24 日(土)<br>14:30～16:30 | 公開シンポジウム「タバコをやめれば笑顔が戻る」                              | 国立京都国際会館           | 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会                                                                           |
| 平成 24 年 12 月 1 日(土)<br>13:00～17:40  | 公開シンポジウム「脳と意識」                                       | 日本学術会議講堂           | 心理学・教育学委員会脳と意識分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会                                                         |
| 平成 24 年 12 月 1 日(土)<br>16:40～18:40  | 公開シンポジウム「わが国における高度実践看護師のグランドデザイン」                    | 東京国際フォーラム<br>B7(1) | 健康・生活科学委員会看護学分科会                                                                                         |
| 平成 24 年 12 月 14 日(金)<br>13:30～17:00 | 公開シンポジウム「デュアルユース問題とBSL4 施設シンポジウム」                    | 日本学術会議講堂           | 基礎医学委員会病原体学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同総合微生物科学分科会、基礎医学委員会病原体研究に関するデュアルユース問題分科会、科学・技術のデュアルユース問題に関する検討委員会 |
| 平成 24 年 12 月 22 日(土)<br>13:00～17:00 | 公開シンポジウム「大学教育における家政学分野の質保証—学士課程教育における家政学分野の参照基準について」 | 日本学術会議講堂           | 健康・生活科学委員会委員長家政学分野の参照基準検討分科会                                                                             |
| 平成 25 年 1 月 11 日(金)<br>13:00～17:00  | 公開シンポジウム「iPS細胞研究の創薬への応用」                             | 日本学術会議講堂           | 薬学委員会生物系薬学分科会                                                                                            |
| 平成 25 年 1 月 12 日(土)<br>13:00～15:00  | 公開シンポジウム「自然史標本の公的保護を目指して」                            | 国立科学博物館講堂          | 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然史標本の文化財化分科会                                                                         |

|                                                                                                             |                                                                     |                                 |                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 25 年 1 月 23 日(水)<br>10:30~17:30                                                                          | 公開シンポジウム「ヒト生命情報<br>統合研究—国民の健康の礎とな<br>る大規模ゲノムコホート」                   | 日本学術会<br>議講堂                    | 第二部ゲノムコホート研究体制<br>検討分科会                                                                |
| 平成 25 年 1 月 24 日(木)<br>9:00~17:40                                                                           | 公開シンポジウム「Nagoya<br>Symposium:Frontiers in<br>Structural Physiology」 | 名古屋大学<br>豊田講堂                   | 基礎生物学委員会・統合生物学<br>委員会合同生物物理学分科会                                                        |
| 平成 25 年 1 月 25 日(金)<br>13:00~17:30                                                                          | 公開シンポジウム「バイオイنف<br>オマティクスのパラダイムシフト<br>—30 年後の生命科学の姿を描い<br>て—」       | 名古屋大学<br>ES ホール                 | 基礎生物学委員会・統合生物学委<br>員会・農学委員会・基礎医学委員<br>会・薬学委員会・情報学委員会合同<br>バイオイnfオマティクス分科会・生<br>物物理学分科会 |
| 平成 25 年 2 月 25 日(月)<br>8:30~18:10<br>平成 25 年 2 月 26 日(火)<br>9:00~18:50<br>平成 25 年 2 月 27 日(水)<br>9:00~12:50 | 公開シンポジウム「放射線健康リ<br>スク管理福島国際学術会議」                                    | 福島ビューホ<br>テル西館会<br>議室「安達太<br>良」 | 臨床医学委員会放射線防護・リ<br>スクマネジメント分科会                                                          |
| 平成 25 年 3 月 1 日(金)<br>14:30~17:00                                                                           | 初等・中等教育課程における「ヒ<br>トの遺伝学」教育の推進と社会に<br>おける遺伝リテラシーの定着                 | 日本学術会<br>議講堂                    | 第二部                                                                                    |
| 平成 25 年 3 月 7 日(木)<br>14:00~17:30                                                                           | 公開シンポジウム「医学研究にお<br>ける利益相反マネジメントの在り<br>方を考える」                        | 東京医科歯<br>科大学鈴木<br>章夫記念講<br>堂    | 臨床医学委員会臨床研究分科<br>会                                                                     |
| 平成 25 年 3 月 18 日(月)<br>10:00~17:00                                                                          | 公開シンポジウム「生体医工学フ<br>ォーラム2013 in 仙台・医工学<br>教育・研究の現状と展望」               | 東北大学青<br>葉山工学部<br>中央棟大講<br>堂    | 基礎医学委員会生体医工学分<br>科会                                                                    |
| 平成 25 年 3 月 18 日(月)<br>13:30~16:30                                                                          | 公開シンポジウム「世界の食料<br>問題へ期待が高まる太陽光植物<br>工場のイノベーション」                     | 日本学術会<br>議講堂                    | 農学委員会・食料科学委員会合<br>同農業情報システム学分科会                                                        |

|                                    |                                           |                                     |                                                                                    |
|------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 25 年 3 月 21 日(木)<br>13:00-17:00 | 公開シンポジウム「農林水産業<br>への地球観測・地理空間情報技<br>術の応用」 | 日本学術会<br>議講堂                        | 農学委員会・食料科学委員会合<br>同農業情報システム学分会、<br>農学委員会林学分会、食料<br>科学委員会水産学分会                      |
| 平成 25 年 3 月 26 日(火)<br>16:30-18:30 | 公開シンポジウム「東日本大震<br>災後の住民の現状と環境有害物<br>質リスク」 | 金沢大学鶴<br>間キャンパ<br>ス・保健学類<br>1220 教室 | 基礎医学委員会・健康・生活科<br>学委員会合同パブリックヘルス<br>科学分会、健康・生活科学委<br>員会・環境学委員会合同環境リ<br>スク分会（三部と共催） |
| 平成 25 年 3 月 30 日(土)<br>9:00～12:00  | 公開シンポジウム「第 7 回獣医学<br>教育改革シンポジウム」          | 東京大学駒<br>場キャンパス<br>第2会場             | 食料科学委員会獣医学分会                                                                       |

|     |       |
|-----|-------|
| 報   | 8     |
| 総 会 | 1 6 4 |

## 第 三 部 報 告

### 第三部の活動

平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月の半年間における、第三部および関連の分野別委員会の活動を以下に報告する。この間、第三部役員会を 3 回（10/26、12/21、1/25）、第三部拡大役員会を 2 回（11/30、2/22）、理学・工学系学協会連絡協議会を 1 回（1/22）開催した。

#### 1. 提言等の発出

○提言『『ひと』と『コミュニティ』の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成の緊急提言』環境学委員会環境政策・環境計画分科会 (H24. 12. 05)

○提言「いのちを育む安全な沿岸域形成の早期実現に向けた災害廃棄物施策・多重防御施策・生物多様性施策の統合化の緊急提言」環境学委員会環境政策・環境計画分科会 (H24. 12. 05)

○提言「地質地盤情報の共有化に向けて一安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備一」地球惑星科学委員会 (H25. 01. 31)

#### 2. シンポジウムの開催

○材料工学委員会：「材料工学の温故知新」(H24. 10. 27)（日本学術会議講堂）

○材料工学委員会＋関連 34 学協会：第 5 6 回日本学術会議材料工学連合講演会 (H24. 10. 29-30)（京都テルサ）

○情報学委員会：「ICT を生かした社会デザインと人材育成」(H24. 11. 16)（日本学術会議講堂）、第 6 回情報学シンポジウム「日本がリードするビッグデータ新世紀」(H25. 02. 27)（日本学術会議講堂）

○機械工学委員会：「キャビテーションに関するシンポジウム」(H24. 11. 23)（金沢工業大学 扇が丘キャンパス）

○土木工学・建築学委員会＋関連 30 学会：「巨大災害から生命と国土を護る一三十学会からの発信一」(H24. 11. 29)（日本学術会議講堂）

平成 23 年 12 月から 8 回にわたって開催した連続シンポジウムの最終回であり、締め括りの総括フォーラムと位置づけられるものであった。連続シンポジウムの内容は「学術の動向」2013 年 3 月号において特集としてまとめられた。

○総合工学委員会、機械工学委員会：「第 2 回計算力学シンポジウム」(H24. 12. 10)（日

本学術会議講堂)

○環境学委員会、地球惑星科学委員会「国際シンポジウム Future Asia 科学・技術と社会の架け橋：Future Asia における持続性科学と地球環境変化研究の統合的実践に向けて」(H24. 12. 13) (総合地球環境学研究所)

○数理科学委員会：「学士課程教育における数理科学分野の参照基準を考える」(H25. 01. 13) (日本学術会議講堂)

○土木工学・建築学委員会、機械工学委員会：「科学技術人材育成シンポジウム：工学教育の新しい展開に向けて—グローバル化への現状と課題—」(H25. 02. 09) (日本学術会議講堂)

○地球惑星科学委員会：「自然災害国際ネットワークの構築に向けて：固体地球科学と市民との対話」(H25. 02. 01) (日本学術会議講堂)

○電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会：「ICT(情報通信技術)の将来展望と課題解決に向けて—期待される人材とその育成方策—」(H25. 01. 30) (日本学術会議講堂)

○機械工学委員会、土木工学・建築学委員会+関連 24 学協会：第 6 2 回理論応用力学講演会(H25. 03. 06-08) (東京工業大学)

### 3. 大型計画マスタープラン関連のシンポジウム等

学術の大型施設計画・大規模研究計画マスタープランの策定方針の公表を受けて、各分野のコミュニティで検討が進んでおり、この間、それぞれの分野における将来計画を議論するシンポジウム等も多く開催されている。下記は、日本学術会議 HP の「公開講演会・シンポジウム等開催予定表」に掲載されているものであるが、この他にもマスタープラン関連のシンポジウム等が数多く開催されている。

「物性物理学・一般物理学の未来を語る」(H25. 01. 15) (日本学術会議講堂)

「素粒子物理・原子核物理分野の大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」(H25. 02. 08) (日本学術会議講堂)

「航空宇宙・海洋分野に係わる学術の大型施設計画・大規模研究シンポジウム」(H25. 02. 12) (日本学術会議講堂)

「天文・宇宙物理分野の将来計画」(H25. 02. 17-18) (小柴ホール)

### 4. 学協会との連携

○第三部：理学・工学分野の学協会連絡協議会 (H25. 02. 22)

第三部に係わる 11 の分野別委員会と、65 の学協会が参加している協議会である。「理学・工学分野の夢ロードマップ」の改訂版を今期中に作成する方針が共有された。

「学術の大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」の策定方針に関する説明がおこなわれ、意見交換を行った。

公益法人制度改革への各学協会の対応について調査したところ、公益法人を選択した学協会と、一般法人を選択した学協会とがほぼ相半ばした。

大学教育の質保証のための参照基準の策定については各分野別委員会が主体となって行うこととなったことから、各分野別委員会における検討状況を調査し情報を共有した。策定に際しては関連学協会との連携が重要であることが確認された。

#### 5. 共同利用研究所等の外部委員推薦依頼への対応

○東京大学地震研究所運営協議会委員 ⇒ 地球惑星科学委員会に推薦依頼。

○東京大学大気海洋研究所研究船共同利用運営委員会委員の推薦 ⇒ 地球惑星科学委員会に推薦依頼。

○京都大学数理解析研究所の運営委員会委員および専門委員会委員 ⇒ 数理科学委員会、物理学委員会、総合工学委員会、情報学委員会に推薦依頼。

#### 6. 今後の主な予定

平成 25 年度の第三部夏季部会は 8 月 1 日-2 日に名古屋で開催する。市民講演会の講師として益川敏英先生、國吉康夫先生を予定している。

文責 第三部部長 家 泰弘